

学校法人石田学園

2025 事業計画



Message from President



学長挨拶

広島経済大学は、1967（昭和 42）年、歴史ある武田山の麓に開学しました。大学の経営母体である石田学園創立の理念は「和を以て貴しと為す」、大学開学の理想は「大学の道は明德を明らかにするに在り」であり、こうした理念理想のもと、教育の拡充を図ってきました。経済学部、経営学部、メディアビジネス学部の3学部を備える社会科学系の総合大学として、次代を担う人材である「ゼロから立ち上げる」興動人、すなわち既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を持ち、仲間と協働して何かを成し遂げる力を備えた人材の育成を目指しています。

少子化という大問題が背景で進行する中、地方の私立大学が存在し続けるためには、大学の価値を学外に明確に示す必要があります。大学の価値は、研究と教育です。本学では特に教育を重視し、次代を担う学生を育成して国家社会へ貢献することに価値を置いています。時代にふさわしい、より良い教育を目指して**中期計画（2024-2028）**を策定しており、この事業計画は<2年目>の位置づけです。



広島経済大学では、学生が仲間とともに切磋琢磨して今を生き抜くゆるぎない力を身につけることを願い、多様な学びと経験の機会を提供するよう、努力を続けてまいります。今後とも、あたたかなご支援ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

学長 石田 優子

建学の精神「和を以て貴しと為す」

広島経済大学の経営母体である学校法人石田学園は、明治 40 年に校祖石田米助翁によって創立されました。学園の創立にあたり、学園創立の根本的な目的である建学の精神を「和を以て貴しと為す」としました。

立学の方針「大学の道は明德を明らかにするに在り」

本学は、学生一人ひとりが、学問研究を通して、明德（本来持っている曇りのない本性）を磨き、前途有為な人間として自己を確立することを教育の理念としています。

教職員の行動指針「Be Student-oriented（すべては学生のために）」

Mission

「ゼロから立ち上げる」興動人の育成

少子化、AI やテクノロジーの進化、世界情勢の変化、多様化、コロナウイルスのもたらした価値観の変容など、私たちを取り巻く環境は急速に変化しています。混迷する時代に求められる人材とはどういう人か、私たちは問い続けてきました。そして掲げた人材像が、「ゼロから立ち上げる」興動人です。

興動人とは、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材。本学では「興動人」を実践的に育成するために、「社会人として必要な学識を養う」、「人間力を培う」、「自分を表現する能力を身につける」ことを柱として、さまざまな取り組みや特色ある学習プログラムを実施しています。いかなる時代をも、明るくたくましく生き抜く力を育てることが、私たちのミッションです。



Vision

1. 長期ビジョン

安定した経営基盤のもと、特色ある高品質の教育で地域社会と経済の発展に寄与し、中四国地区で No.1 の教育力を誇る私立大学としての名声を確立する。

目指す姿

- ・ 学生であることに誇りが持てる大学
- ・ 地域の高校生誰もがあこがれる大学
- ・ 教職員であることに誇りが持てる大学
- ・ 卒業生であることに誇りが持てる大学
- ・ 保護者が自分の子供を自慢できる大学



2. 中期ビジョン：2028 年度までの達成目標

特色ある教育プログラムを持つ、私立の社会科学系総合大学として、地域の教育界をリードし、次代を担う人材を育成する大学の地位を確かなものとする。

2028 年にどういった大学でありたいか

以下の3点において、No.1 の大学を目指します

1. 挑戦する大学

「学ぶのは、行動を興すため」という本学のポリシーにもとづき、変化をチャンスととらえ、機動力と独自性を発揮して挑戦しつづける大学になる。

2. 学生を伸ばす大学

地方中堅大学の利点を活かし、知識と経験を重視した教育と手厚い支援体制を確立。

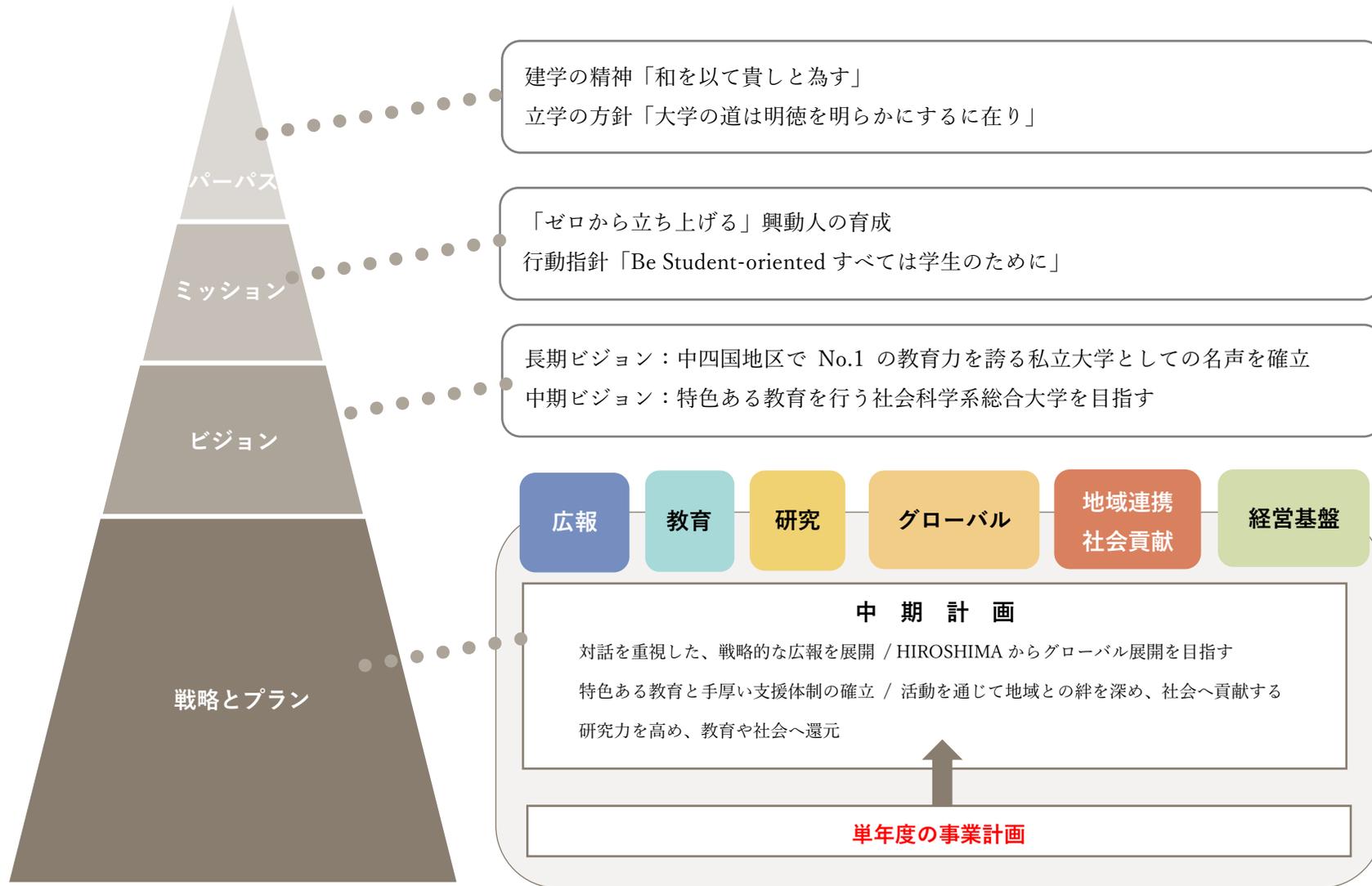
「興動館教育プログラム」の推進と、4年間一貫のゼミ教育を通じて

「最も学生を伸ばす大学」としての評価を獲得する。

3. 地域に愛される大学

人材の育成に加えて、研究力を高めて成果を発信し、社会の発展に寄与する。

学生の諸活動を通じて培った地域との絆をさらに深め、愛される大学になる。



Strategies

広報・ブランディング

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

大学の発信力を高める / ステークホルダーとのコミュニケーションの強化 / 情報公開体制の整備

教育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

興動人育成のための教育を促進 / 時代に対応した教育の展開 / 教育改革の促進 / 教育支援 / 学生支援 / 個性的な施設を活用した教育の推進

研究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」

研究支援体制の整備 / 成果の教育への還元 / 成果の社会への還元

グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」

国際交流事業支援 / グローバル教育の推進
キャンパスの国際化 / HIROSHIMA から世界へ

地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」

地域連携の深化 / 大学のリソースの提供と学習機会の推進 / 興動館や立町キャンパスの活用 / スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

経営基盤

財政基盤の強化 / 危機管理体制の強化 / キャンパスの環境整備 / 内部質保証

アクション・プラン

本事業計画は、「2024-2028 中期計画」に基づき、2年次となる2025年度の重点および新規実施項目に関してまとめたものです。

なお、文章内の【 】は、中期計画に記載の文であることを意味しています。

1. 広報戦略

「対話を重視した、戦略的な広報を展開」

アクティブな学びを発信し、輝く広経大ブランドを確立

日頃の教育及び研究、学生の学びに関する活動といった情報の発信強化を通じて、学びに真摯な大学としてのイメージ確立を目指します。

大学の発信力を高める

- ・【全学的な広報活動を推進すべく、教職員の意識改革をはかる】ため、日常の業務について、常に広報視点、客観的視点をもって取り組む。
- ・【教育と研究の成果が持つ社会的な価値を追求する】ため、学部学科から広報部門への情報提供がスムーズに行われるよう、連携を強化する。
- ・教育の情報数について、学科および教員間のばらつきを是正する。
- ・2024 年度開始した動画配信を継続、配信数や内容を工夫し、アクセス数を増やす。



ステークホルダーとのコミュニケーションの強化

- ・【同窓会とのより一層の連携強化を図る】ため、公式 SNS を同窓会サイトで案内するなど周知に取り組み、アクセスおよびフォロワー数拡大を目指す。
- ・【高校および高校生への情報提供の工夫】として、公式 LINE アカウントの活用拡大をはかるとともに、他の SNS や電子メールの活用を検討する。
- ・広報誌の発行など、情報提供の時期を適切に見直す。
- ・研究成果の社会への還元を推進する。
- ・オープンキャンパスや説明会などの機会を通じた保護者等への情報提供を推進する。
- ・地域社会との積極的な情報交換を行う。

情報公開体制の整備

- ・法令に従って適切な情報公開を行うとともに、情報へのアクセス方法のわかりやすさなど、ステークホルダー目線にたった工夫をする。

2. 教育

「特色ある教育と手厚い支援体制の確立」

ゼロから立ち上げる「興動人」を育成する

広島経済大学では、既成概念にとらわれない斬新な発想と、旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目標としています。変化する時代に対応し、興動人育成のための特色ある教育プログラムのブラッシュアップを図っていきます。

■ 興動人育成のための教育を促進

■ “ゼミの広経大”、学びの面白さを発信

『4年間一貫、少人数ゼミの特色を生かして、ユニークな活動を実施』

- ・【企業や地域と連携して、課題解決に向けた提言作成に取り組む活動の実施】を、すべてのゼミに広げるべく、2025年度もさらに実施するゼミを広げて、教員と企業や行政などの学外団体との連携によって関係構築を深め、学生が活動に参加し学びの面白さを体験することで成長を実感できるようなゼミ授業を継続する。

■ 興動館教育プログラムの充実

- ・【科目の充実と履修者の増加】に向け、各学科の特性を生かした興動館科目の充実について検討する。また、履修者の増加を図る。
- ・【興動館プロジェクトの充実】に向け、地域や関係団体との関係強化を推進する。
- ・【既存プロジェクト活性化】のため、支援プログラムとコーディネーターの充実を図る。
- ・プロジェクトをサポートする【コーディネーターの充実】に関しては、教職員の理解促進を図り、関与率を上げるため、その業務内容を明確化する。

■ 時代に対応した教育の展開

■ 初年次教育の充実

- ・【リメディアル教育（学習支援）の充実】を目指す。
 - a) 総合型選抜、学校推薦型選抜合格者対象の入学前課題の進捗率を向上させるための施策を引き続き検討する。
 - b) 教員やチューデントアシスタント（SA）による学習支援活動の充実に向け、ワーキングを通じて明らかになった問題点に対する改善策を検討する。
- ・【アカデミックスキルの確実な修得】のため、1年次必修の「入門ゼミ」の内容のチェックおよび改善を継続する。

■ データサイエンス教育プログラムの周知と推進

- ・【プログラムの周知と履修者数の増加】のため、各学期初めの履修ガイダンスや学科ガイダンスを通じてプログラムの重要性や科目内容を紹介する。履修者目標を前年度より引き上げ、400名とする。
- ・【プログラムの履修必修化】については、全面オンデマンド授業導入に向けて、まずは授業の一部についてオンデマンドを実施し、問題点等を検証する。

■ 時代に対応する新たな教育方法の開発

- ・【ICT技術を活用した教育（授業）の推進】のため、オンライン授業マニュアルの更新を実施し、授業での活用事例集の作成を行う。
- ・教育現場における生成AIの活用に向け、教職員自身のリテラシーの向上を図るとともに、学生が教育研究でどのような利活用ができるかを検討する。
- ・【IR (Institutional Research) による教育プログラムの改善支援】として、教学課題に対して適切な改善策の提言を行う。
- ・HUENAVIの諸機能について教員の利用レベルの向上を図り、授業改善につなげる。

■ 教育改革の促進

■ 教養教育

『本学が目指す教養教育（良識ある日本人として国際人として生きていくために必要な教養）の理念と目的を確認し、時代に即応した科目の検討を行う』

- ・自己理解系科目および他者理解系科目について、内容の見直し、科目の改廃・新設、同一科目の複数クラス開講などについて検討を始める。
- ・外国語科目については、異文化理解、コミュニケーション能力の向上を目標とする。学生の多様な語学レベルに対応するため、レベル別のコンテンツの開発、能力別クラスの編成、クラスあたりの履修者数の適正化などを図る。
- ・論理的思考の獲得を目指す日本語文章表現科目群については、発展的な内容を扱う科目を削減し、基礎的な内容を扱う科目の充実を図る。なお、2025年度より読解力向上のための基礎科目を新設する。

■ 経済学部

『地域社会に信頼される経済学部として、グローバルな視座を備えた、地域に貢献しうる人材を育成し、地域社会の発展に寄与する学部を目指す』

- ・【理論と実践を組み合わせた経済学教育の確立】に向け、具体的な新規科目設置と廃止、教育プログラムの設置検討を行う。
- ・【広島を中心とした地域経済の課題を分析し解決策を模索する】に向け、地域課題に

取り組む新科目設置及びこの分野のコンテンツ充実をはかる。また外部機関を巻き込む教育仕組みを探る。

- ・【金融リテラシーから理論までを網羅する金融教育の確立】に向け、人生設計をふまえた体験型金融教育プログラム及び資格・検定の取得の作成に取り組む。

■ 経営学部

『広島地域の企業を中心とした産学連携を強化し、実践的なビジネス教育を通じて、産業界をけん引する学部を目指す』

- ・【アントレプレナーシップの醸成による実業に結び付く教育内容の強化】に向けて、ゼミ単位での産学連携強化を図る。
- ・【産学連携をベースとした科目の見直し】に向け、ビジネスコンテストの実施などビジネスプランニング能力の強化を図る。
- ・スポーツ経営学科では、【スポーツビジネスを実践する力を養う科目体系の見直し】を進める。

■ メディアビジネス学部

『コンピューターや AI、情報通信、各種メディアの急速な進化と現代社会の要請に柔軟に対応し、新しい価値を創出し次代のビジネスを牽引できる有為なビジネスパーソンを育成する中四国唯一の学部を目指す』

- ・【業界最先端の理論や知見を学ぶ学部科目の検討】に向け、メディアビジネス学科では、昨今のメディア環境の急速な変化に対応できるメディア情報リテラシーを身に付けることができるような科目を検討する。
- ・ビジネス情報学科では、文系大学としての AI リテラシーと AI 活用スキルの修得に向けてのカリキュラム整備を進める。
- ・【多様な進路と豊かな職業選択を考えさせるキャリアプログラムの開発】に向け、まずは学部独自のインターンシップ先の開拓をはじめ、急速な社会変化に対応できる「出口戦略」を検討し、従来以上に幅広いキャリアパスに関する整備を行う。

■ 大学院経済学研究科

『社会の要請や学生のニーズに基づき、カリキュラムの充実、新設科目の検討、授業内容の見直し、大学院生のキャリアパスの拡充などを行い、研究の拠点として誇りうる大学院の創造を目指す』

- ・【**税務会計分野のカリキュラムの充実**】に向け、会計分野の教員の補充・充実を図り、科目・コンテンツ増の検討を継続する。
- ・大学院研究拠点の拡充の観点から引き続き学部との5年プログラム生の入学を推進し、併せて新設科目の検討を行う。

■ 教育支援

■ ピア・サポートを支援

- ・教員と連携し、SAの人数の維持と更なる質の向上を図る
- ・「ピアサポーター養成講座」の受講対象を、SAのみならず学生同士が支援する活動全般に広げる。

■ フォローアップ体制の整備

- ・【**ラーニングサポートコーナー（LSC）の活性化**】に向け、教員による講座（TOEIC等）や、学生によるテスト対策講座（英語・簿記）等をきっかけとして活用し、LSCでの個別相談へつなげる。
- ・【**SAのスキル向上を支援**】するため、定期的に研修会を行うとともに、TOEIC等の検定の受験を促す。
- ・【**成績不振学生に対する早期対策**】として、授業の出席不良者情報を基に低単位修得者になりうる学生を早期に抽出し、担当教員やクラブ・サークル顧問等と教育・学習支援センターが連携して、学生をLSCでの補習へ導く。
- ・各学期初めの全学生を対象とした履修指導や、1年次後期及び2年次前期終了時におけるフォローアップガイダンスを継続する。

■ 学びへの挑戦をサポート

- ・【**資格取得支援講座の充実**】に向け、企業等のニーズに合わせた情報系講座（2講座）を新規開設する。
- ・教育・学習支援センターやキャリアセンターなど関係部署が連携し、英語の検定や公務員試験、教員採用試験など、同じ目標を持つ学生がともに励ましあって学べる環境の整備（研究会など）を目指す。

■ 学生支援

■ 奨学金制度

- ・学業成績優秀者奨学金の他、課外活動奨学金（学費減免を含む）や、アクティブ奨学金などの支援制度について、効果性の面から再検討を図る。

■ 「オーダーメイド」の就職支援

- ・企業訪問により情報収集を行うと同時に、学内合同企業セミナーへの参加を依頼する。

- ・【公務員合格者数の増加をはかる】ため、公務員希望者を把握し、公務員対策講座への参加を促す。
- ・【地元就職を目指す学生の支援】のため、Uターン就活講座の内容を充実させる。
- ・【学部の特性に見合う就職先の開拓】として、特にメディアビジネス学部の特性に見合う就職先について、教員と連携して開拓する。
- ・【低学年次からのキャリア教育強化】として、キャリア科目「社会人基礎学力（計算）・（論理）」「キャリアスキルズⅠ・Ⅱ」の履修を促す。

■ 女子学生支援

- ・キャリア支援として、履修生の評価が高い「女子学生支援関係科目」を継続する。
- ・キャリア支援イベントの参加学生数の増加を目指し、学生スタッフとも協議の上、イベント内容の充実を図る。
- ・SNSによる広報活動やイベント運営（企画・準備を含む）を通して、学生スタッフのスキル向上をサポートする。

■ 学生活動の支援

- ・退学予防対策に関して、【学生対応に関する学内連携を促進】する。
早期からの継続的な対応に向け、教育・学習支援センター、学生課、教務課の学内連携を促進する。
- ・【学務センター スポーツ支援課による支援体制を確立】ため、2025年を「運動部学生が輝く「スポーツの広経大」を目指す一年目」としてのぞむ。
 - a) 大会案内や結果、部内ニュースをタイムリーに開示する事で、支援者を増やす。
 - b) 体育局員の役割分担により、学生主導による運営をサポートする。
 - c) 通年での、研修会(熱中症、SNS、薬物等)と講習会(初期救急対応)を実施する。
 - d) 多様な学生対応を学生相談室や保健室、学務センター内で連携する。



(左：ピア・サポート、右：キャリア支援)



(左：新入女子学生 Welcome Party、右：スポーツ実績型入試対象者ガイダンス)

■ 個性的な施設を活用した教育の推進

■ 「知の館」としての図書館

- ・【情報資源の拡充】のため、各学部教育目標に沿った専門的資料と「多様性の理解」が深まる資料のバランスを考慮し、拡充を図ることを継続する。
- ・【図書館情報リテラシー教育】として、2年次で理解・習得すべき図書館情報リテラシーについて検討する。
- ・【非来館型サービスの充実】に向け、学外アクセス可能な電子資料の利用促進を図り、また、時代に即した設備への改修案の検討を進める。
- ・3階に新たに設けるラーニングスペースについて、学生の利用促進策を検討する。

■ 「創造の館」としての明德館

- ・明德館7-8階の利用者数(授業日)について1日延べ200名を目指す。
- ・アクティブ・ラーニングに関するFD研修会の実施や、授業への導入事例集の作成を継続する。

■ 「実践の館」としての興動館

- ・興動館教育プログラム改革「興動館 NEXT10」に基づき、改革及び改善を図った様々な事業について、引き続き点検・評価を行い、更なる質向上を図る。

■ 世界遺産島内「特別な経験の場」としての成風館

- ・成風館を利用したゼミ合宿等活動への支援を継続する。

■ 「情報教育の中核」としてのメディア情報センター

- ・必携ノートパソコンを快適に利用するための環境整備を実施するとともに、ノートパソコンを活用した学習サポートも継続して行う。



(左上：図書館、右上：明德館、左下：宮島 成風館、右下：興動館)

3. 研究

「研究力を高め、教育や社会へ還元」 社会科学分野における「知の拠点」を目指す

地域の活性化、格差問題、環境破壊など社会の問題に向き合っ意義ある提言を行い、地域と連携して、持続可能な社会をともに作ることを目指します。また、研究活動を大学内部だけに限定せず広く実業界や市民社会に拡大していくことを通じて、社会科学を主たるフィールドとする大学として、その責任を果たします。

■ 研究支援体制の整備

■ 支援体制の充実

- ・インパクトファクターの高いジャーナルへの投稿に対する新たな支援策を検討する
- ・科学研究費助成事業に応募するための申請書作成ポイントに関する説明会の充実を図る。
- ・科研費に関する支援策の見直しを検討する。

■ コンプライアンスへの取り組み強化

- ・前年度に導入した研究不正対策ツールの適切な利活用ルールを作成する。
- ・研究倫理関係規程を適切に運用する。
- ・公的研究費について最新動向を注視しつつ、引き続き適切な管理に務める。

■ 研究成果を教育や社会へ還元

- ・教員の研究から得られた新たな知見を授業に反映するよう、授業内容の見直しを行う。
- ・地域課題解決に向けた共同研究や産官学連携事業のシーズの発見に着手する。

4. グローバル戦略

「HIROSHIMA を意識したグローバル展開を目指す」 ここから世界へー 真のグローバルリストを育成

世界のどこにいてもすぐにつながれる時代、世界はずっと身近になりました。世界への一番のハードルは、もはや私たちの意識そのもののように見えます。本学では、学生が世界とつながる経験を積み、世界とともに生きる意識を身に付けられるよう、環境を整えます。

■ 国際交流事業支援

■ 世界で活動する学生プロジェクトを支援

- ・海外での活動を伴う興動館プロジェクトへの助成を継続する。
- ・【上記プロジェクトが、高校生や地域社会に対し、活動を通じて学んだ問題を伝える事業を展開する】よう後押しする。

■ 海外の関係校との連携の強化

- ・姉妹校や協定校、NIBES 加盟校との関係を強化する。
- a) タイ王国の3大学と連携し、興動館科目「広い世界を体験してみよう」の短期体験留学を実施する。また、タイ以外の国での実施の検討も行う。
- b) 協定校との学生交流のみならず、留学生科目の拡充及び教員交流による関係の深化を企図し、教育研究交流（教員交流や共同研究会への参加）も継続実施する。
- ・【新規の姉妹校や協定校の開拓】として、2024年に新規にMOUを締結したカナダ・ブリティッシュコロンビア大学（UBC） English Language Institute への学生派遣を推進する。



(右：短期交換留学プログラム STEP の開講式)

■ グローバル教育の推進

- ・ 留学生の受け入れと、学生の送り出しの強化をはかる。
- ・ 交換留学生は、45～50 名を目指す（寮の入居可能数を上限とする）。
- ・ 派遣留学数は、前年度 22 名を超える派遣留学プログラムの実施を目標とする。
- ・ 短期体験の拡充とともに、長期語学及び交換留学プログラムへの誘導も図る。
- ・ Global Ambassador AO 入試を引き続き検討する。同入試制度を利用して入学した学生が、NIBES 加盟校への正規交換留学ができること、さらに、これらの学生が学内の英語での専門科目（留学生科目）をも受講することを最終目標とする。
- ・ 英語による専門科目を増やし、カリキュラムの国際化を図る。

■ キャンパスの国際化

- ・ 【留学生と日本人学生の交流、学びあいの促進】に向け、2024 年に新規スタートしたイベントを継続実施しつつ、イベントの対象者や内容の発展的展開も検討する。
- ・ インターナショナルグループ（仮称、スタート時は学生 20 名程度を予定）の立ち上げを行う。交換留学生との交流イベントに主体的かつ自発的に取り組むことにより、学生自身の人間力や英語運用力の向上を最終目標とする。

第154号 広島経済大学広報 2024年(令和6年)12月20日 (2)

キャンパスにいるのに、世界中を旅した気分。

1 キャンパスの国際化
特別インタビュー！進むキャンパスの国際化
交換留学生に聞いてみた

広島経済大学では、1年の間に、世界10カ国以上から留学生がやってきます。これほどの国の人と交流できるなんて、まるで世界旅行をしている気分。本学はNIBESの日本唯一の加盟校として世界中から注目されており、毎年、多くの留学生を迎えて、異文化交流を盛んに行っています。

メキシコ モントレー工科大学 セバスチャン DEGADALO DONAZAR Sebastian	ポーランド クラコフ経済大学 ユリア CHUDECKA Julia Dorothea	ベルギー HEC 高等経済大学 ケンゾ CAMILLENI GIOIA Kenzo	ドイツ ザウプトンーク大学 メタ SEVERO Meta-Maria
-----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------	---------------------------------------------

(本学広報誌特別号 第154号)



HIROSHIMA から世界へ

- ・【HIROSHIMA から世界へ】という項目を含む教育プログラムの構築を目指して、2025年度は、中期計画の趣旨に合うプログラムコンテンツ、開催方法や時期、年間スケジュールなどを具体的に検討する。
- ・【広島で学ぶことの意義を伝える教育プログラムを構築する】ため、具体的な教育プログラムの設置検討に取り組む。
- ・自治体や県内他大学、海外提携校との連携を模索する。
- ・広島がスポーツや平和における「世界のハブ」となるための施策に協力する。

5. 地域連携・社会貢献

「活動を通じて地域との絆を深め、社会へ貢献する」
人材育成を通じて、社会の未来に貢献する

次代を担う若者にとって、学びの中で社会と連携する経験は非常に重要であり、そうした経験をより多く積むことで地域に貢献しようと願う人材へと成長していきます。本学では教育機会、人材育成を通じて、地域と連携し、貢献することを目指します。

地域連携の深化

地域連携事業の促進

- ・【行政や地域団体と連携し、学生目線での提言や活動が行えるような機会を増やす】ため、まずは教員と地域団体との関係構築をすすめる。
- ・【社会貢献分野に関する新たな興動館プロジェクトの立ち上げの推進】に向け、地域連携協定を結ぶ安佐南区社会福祉協議会等から情報を得て新規カウンターパートの開拓を行い、学生とマッチングする。



■ 地域企業との連携の強化

- ・ 包括協定を締結している企業や官庁との連携を強め、提携事業を推進する。
- ・ 【研究を活かした新たな産官学連携協定先の開拓】のため、本学教員の研究実績最新動向を収集・管理する仕組みを構築する。

■ 大学のリソースの提供と学習機会の推進

■ 社会人向けのキャリアアップ・プログラム（CP）

- ・ オンライン型への対応など、受講生のニーズへの対応を検討する。
- ・ 【受講者数の増加を目指す】ため、ターゲット層の興味・関心に沿った媒体への広告出稿を検討する。
- ・ リスキリングに関する多様なニーズに対応するために、講座の内容と魅力的な講座名、講座の提供方法に関して、柔軟な検討を行う。
- ・ 【CP受講者が受講後も交流できる環境の支援】を目指し、コミュニティづくりの準備を進める。まずは、個別の講座単位からスタートさせる。
- ・ 科目の改廃を検討する。

■ リソースを地域へ還元

- ・ 地域対象の公開講座を充実するとともに、その周知方法を再検討する。
- ・ 自治体、企業や地域団体への課題解決に向けた調査・分析・提案への協力を推進する。



■ 興動館や立町キャンパスの活用

- ・ 市場調査を実施して、立町キャンパスの活用についての提案を行う。

■ スポーツや平和、文化を通じた地域活性化への取り組み

- ・ 国際スポーツサロンを開催する。
- ・ 安佐南区社会福祉協議会との地域連携協定に基づき、災害時のボランティア体制及び学内の体制について、文書化、規程化を行う。

6. 経営基盤

■ 財政基盤の強化

- ・教育活動資金収支差額の支出超過を改善するため、学生数の確保を目指し、収支バランスの均衡を図り、長期的に安定した経営基盤を構築する。
- ・2025年度の新入生の数が予想を下回ったため、25年度予算は、学生納付金が減少、その結果として教育活動支出が収入を大きく上回り、大変厳しい予算になることが判明した。そのため、教育研究経費、管理経費の執行について、教育の質を担保した上で、さらなる業務の見直し、合理化に取り組むよう各部署に対して要請することで、教育活動収支の均衡を図るよう努力する。
- ・教育活動外収支については、適切なリスク管理の下で安全面に配慮した資産運用や保有資産の活用を行い、安定的な財務基盤の確立を目指す。

■ 危機管理体制の強化

- ・事業継続計画（BCP）第2版の周知及び、防災体制（自衛消防隊）の再構築を行う。
- ・学内備蓄品を購入整備するための計画を立案し、備蓄場所の確保等を検討する。
- ・学内教職員参加の防災訓練計画を立案し、2026年実施に向け、関係官庁と調整する。
- ・危機管理マニュアルの見直しと周知、防災訓練に合わせて、部門会議などを実施する。

■ キャンパスの環境整備

- ・【SDGsを意識し、事業の効率化やペーパーレスを推進】することを継続し、会議のさらなるペーパーレス化を目指して啓発する。
- ・【施設のカーボンニュートラル化を進める】べく、ロードマップを作成する。
- ・ハイブリット型授業の適切な実施に向け、設備、備品、教室稼働率など分析する。
- ・メディア情報センターのパソコン教室について、Windows11対応を含めた設備の更新を実施し、2025年度から運用を開始する。

■ 内部質保証

- ・第4期認証評価基準での自己点検評価を実施する。
- ・「広島経済大学ガバナンスコード」を廃止し、日本私立大学協会ガバナンスコード第2版に準拠して、評価・報告を実施する。
- ・休補講情報の調査など適正な授業実施について監査を行う。
- ・授業改善や学生対応に関するFD研修会を継続して実施する。
- ・職員能力育成については、分野別、階級別研修について充実を図る。また、効果検証を行うための調査の導入を検討する。
- ・FDおよびSDについて、実施後のアンケート実施など効果測定に取り組む。

資金収支予算書
2025年4月1日から
2026年3月31日まで

(単位：円)

収入の部		
科 目	予 算	備 考
学生生徒等納付金収入	3,047,500,000	
手数料収入	50,400,000	
寄付金収入	1,500,000	
補助金収入	419,300,000	
資産売却収入	200,000,000	
付随事業・収益事業収入	50,200,000	
受取利息・配当金収入	632,000,000	
雑収入	87,400,000	
借入金等収入	0	
前受金収入	447,500,000	
その他の収入	51,100,000	
資金収入調整勘定	△ 517,800,000	
前年度繰越支払資金	1,761,700,000	
収入の部合計	6,230,800,000	

支出の部		
科 目	予 算	備 考
人件費支出	2,045,400,000	
教育研究経費支出	1,290,400,000	
管理経費支出	261,600,000	
借入金等利息支出	0	
借入金等返済支出	0	
施設関係支出	148,400,000	
設備関係支出	174,500,000	
資産運用支出	600,000,000	
その他の支出	21,200,000	
(予備費)	100,000,000	
資金支出調整勘定	△ 21,000,000	
翌年度繰越支払資金	1,610,300,000	
支出の部合計	6,230,800,000	

事業活動収支予算書

2025年4月1日から

2026年3月31日まで

(単位:円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	備考
		学生生徒等納付金	3,047,500,000	
		手数料	50,400,000	
		寄付金	500,000	
		経常費等補助金	419,300,000	
		付随事業収入	15,200,000	
		雑収入	87,400,000	
	教育活動収入計	3,620,300,000		
	事業活動支出の部	科目	予算	備考
		人件費	1,978,900,000	
		教育研究経費	1,819,400,000	
		管理経費	321,800,000	
		徴収不能額等	0	
	教育活動支出計	4,120,100,000		
教育活動収支差額		△ 499,800,000		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	備考
		受取利息・配当金	632,000,000	
		その他の教育活動外収入	35,000,000	
	教育活動外収入計	667,000,000		
	事業活動支出の部	科目	予算	備考
		借入金等利息	0	
		その他の教育活動外支出	0	
	教育活動外支出計	0		
	教育活動外収支差額		667,000,000	
	経常収支差額		167,200,000	
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	備考
		資産売却差額	21,700,000	
		その他の特別収入	3,000,000	
	特別収入計	24,700,000		
	事業活動支出の部	科目	予算	備考
		資産処分差額	6,300,000	
		その他の特別支出	0	
特別支出計	6,300,000			
特別収支差額		18,400,000		
(予備費)		()		
基本金組入前当年度収支差額		135,600,000		
基本金組入額合計		△ 324,900,000		
当年度収支差額		△ 189,300,000		
前年度繰越収支差額		△ 644,800,000		
基本金取崩額		0		
翌年度繰越収支差額		△ 834,100,000		
(参考)				
事業活動収入計		4,312,000,000		
事業活動支出計		4,176,400,000		

学年暦

【4月】

入学式
新入生セミナー（江田島）
新入生各種ガイダンス
前期授業開始
興動館プロジェクト認定式

【5月】

高校教員対象大学説明会
学内合同企業説明会
学生大会

【6月】

定期演奏会
オープンキャンパス

【7月】

オープンキャンパス
研究倫理及びコンプライアンス研修会
前期学内定期試験

【8月】

夏季休暇
前期追試験
夏季集中講義
オープンキャンパス
前期再試験

【9月】

大学院Ⅰ期入試
総合選抜型入試（興動館選考型）
教職員セミナー
後期授業開始
前期学位記授与式

【10月】

総合選抜型入試
（学部学科、スポーツ選考型）
3年生対象就職ガイダンス
大学祭
全学ゼミ対抗スポーツ大会
国際スポーツサロン

【11月】

祇園・興動祭
学校推薦型選抜入試
同窓会総会

【12月】

卒業生による就活セミナー
興動館プロジェクト活動報告会
冬季休暇

【1月】

新年互礼会
創立記念日
後期学内定期試験
新規興動館プロジェクト立ち上げ説明会

【2月】

後期追試験
一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅰ期入試
学内合同企業セミナー
後期再試験
大学院Ⅱ期入試
留学生入試Ⅰ期

【3月】

一般選抜・共通テスト利用選抜Ⅱ期入試
留学生Ⅱ期入試
学位記授与式
学生定期健康診断

